

子供のいる世帯の生活状況等に関する調査 結果(速報値)報告について

子育て支援部 児童家庭課
平成30年11月7日

子供の貧困対策 国の動き

☆平成25年国民生活基礎調査の結果: 子供の貧困率16.3% ⇒ **6人に1人が貧困**



☆子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成25年法律第64号)

第8条 子供の貧困対策に関する大綱(H26.8.29閣議決定)

- ①子供の貧困に関する指標
- ②指標の改善に向けた当面の重点施策

教育の支援

生活の支援

保護者に対する
就労の支援

経済的支援

☆子供の貧困対策の実施状況を内閣府HPで公表(H28.8.1) 100超の事業
 ☆子供の貧困に関する指標の見直しについて(追加すべき新たな指標の例を提示)(H29.3.31)
 ☆平成28年国民生活基礎調査の結果(H29.6.27): 子供の貧困率13.9% ⇒ **7人に1人が貧困**

子供の貧困対策 船橋市の取組

①庁内調整会議の発足・庁内検討会の設置

構成	教育委員会・市長部局(20の所属長)		
【庁内調整会議】	第1回	H28.11.4	大綱内容の共有、既存事業の調査実施決定
	第2回	H29.5.26	既存事業調査とりまとめ結果の共有 等
	第3回	H29.8.1	未実施事業等の分析結果(中間報告)の共有 庁内検討会の設置、関係機関ヒアリング調査の実施決定
【庁内検討会】	第1回	H29.11.14	関係機関ヒアリング調査の結果報告、実態調査の実施決定
	第2回	H30.2.1	実態調査の調査項目について
	第3回	H30.4.9	委託事業者選定仕様書の承認
	第4回	H30.6.25	調査票の検討
	第5回	H30.7.9	配布する調査票の承認

②市の既存事業等に関する調査・分析

目的	国の実施事業との比較 市の事業の実施状況の確認・整理 市の未実施事業の把握・分析
調査・分析	H28.11~H29.5
検討	調査結果をもとに未実施事業の実施 新たに取り組むべき施策の検討

スクールソーシャルワーカーの配置
就学援助費目(クラブ活動費)の新設

③関係機関ヒアリング

目的	支援者から見える「子供の貧困の問題」に関連すると考えられる実態の把握
調査期間	H29.5~H29.11
対象	児童福祉に関連する 全14機関、39箇所
検討	○気になる子供や家庭の特徴 ○あればよいと思う支援 ⇒実態調査の設問項目の材料として活用

④「船橋市の子供のいる世帯の生活状況等に関する調査」について

目的

船橋市における子供の貧困対策において、対策の方針や新たな施策の策定を検討するための基礎となる、支援が必要な子供や家庭の実態把握と支援ニーズの調査及び、支援ニーズに応える資源量の把握を行う。

調査の概要

- 調査期間
平成30年8月24日(金)~平成30年9月7日(金)まで
- 調査方法
郵送配布・郵送回収
- 調査対象
①一般世帯: 0~18歳未満の子供のいる世帯(無作為抽出)※②③を除く
②ひとり親世帯: ひとり親家庭手当等を受給している世帯(全数)
③生活保護受給世帯: 0~18歳未満の子供のいる生活保護受給世帯(全数)※②を除く
- 回収状況
※合計値は保護者票のみ集計

世帯区分	配布数		回収数		回収率
	保護者票	子供票	保護者票	子供票	
①一般世帯	3,991	(1,601)	2,073	(697)	51.9%
					43.5%
②ひとり親世帯	3,807	(2,300)	1,445	(744)	38.0%
					32.3%
③生活保護受給世帯	139	(83)	55	(28)	39.6%
					33.7%
計	7,937		3,573		45.0%

相対的貧困層の定義

本調査においては、厚生労働省の国民生活基礎調査における貧困線を用い、「相対的貧困層」を定義している。貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額を指し、直近の平成28年調査における平成27年の貧困線は122万円となっている。

なお、本調査においては、世帯の昨年1年間(平成29年1月~12月)の手取り収入を20段階の選択式で聞いており、各世帯人員別の該当する選択肢は下図のとおり。

世帯人員	国の示す貧困線	目安となる手取り収入	調査選択肢
1人	122万円	~122万円未満	
2人	173万円	~175万円未満	1. 50万円未満
			2. 50~100万円未満
			3. 100~175万円未満
3人	211万円	~210万円未満	4. 175~210万円未満
			5. 210~245万円未満
4人	244万円	~245万円未満	6. 245~275万円未満
5人	273万円	~275万円未満	7. 275~300万円未満
6人	299万円	~300万円未満	8. 300~325万円未満
7人	323万円	~325万円未満	9. 325~345万円未満
8人	345万円	~345万円未満	10. 345~365万円未満
9人	366万円	~365万円未満	11. 365~385万円未満
10人	386万円	~385万円未満	12. 385~410万円未満
11人	405万円	~410万円未満	13. 410~450万円未満
12人	423万円	~450万円未満	

調査項目設定の考え方

【調査項目のポイント】

- (1) 子供の生活状況の把握
- (2) 国の示した「子供の貧困に関する指標」
- (3) 関係機関ヒアリングから見えてきた課題やニーズ

(1) 子供の生活状況の把握

- ① 家庭や学校での子供の生活状況の把握
 - 子供の状況(年齢・性別・就学・健康状態 等)
 - 家庭での生活状況(家族との過ごし方・食事の環境・医療機関の利用状況 等)
 - 学校生活や教育の状況(進路・教育の考え・学習状況・成績・放課後の過ごし方 等)
 - 世帯の状況(世帯構成・住居の状況 等)
 - 子供の親の状況(健康状態・就業状況 等)
- ② 相対的貧困層の把握
 - 家計の状況(住居費・教育費・生活費・世帯収入 等)
 - 生活保護・児童扶養手当・就学援助等の受給状況
- ③ 課題・支援ニーズの把握
 - 家庭の抱える困り事(悩み・相談場所・情報収集方法 等)
 - 支援ニーズ(子供に必要な支援や保護者にとって重要な支援 等)

(2) 国の示した「子供の貧困に関する指標」

- 25の指標(主なもの)
 - 生活保護世帯やひとり親世帯の子供の就園率・進学率・中退率・ひとり親世帯の親の就業率 等
- 追加すべき新たな指標の例(主なもの)
 - 高校中途退学率・学力に課題のある子供の割合・朝食欠食児童・生徒の割合 等

(3) 関係機関ヒアリングから見えてきた課題やニーズ

課題

- ・基本的な生活習慣ができていない(朝ごはんを食べていない、不規則な生活リズム、衣服のサイズが合わない、虫歯が多い 等)
- ・学習面での問題(学力の遅れ・提出物や宿題の質が低い 等)
- ・定時制の高校に進学する子供が多い
- ・不登校、休みがち
- ・保護者が支援制度を知らない
- ・保護者が子供との接し方がわからない、子育ての意識が低い
- ・保護者の相談できる相手がいない 等

ニーズ

- ・学力が遅れている子供に対し、個別の学習指導支援
- ・適応指導教室の増設
- ・スクールソーシャルワーカーの配置・活用
- ・訪問支援体制の強化
- ・保護者に対する相談機関の拡充
- ・保護者を制度や支援につなげる支援
- ・子供が様々な支援施設に通うための交通費の補助 等

※上記に示した課題やニーズは、関係機関ヒアリングにおいて、支援者から聞き取った主な意見を整理したものであり、すべての家庭にあてはまるものではありません。



関係機関が必要だと思う支援(4つの重点施策別)

- 教育の支援・・・学習支援・教育施設の増設・人員配置 等
- 生活の支援・・・訪問支援・相談支援・社会資源とのつなぎ 等
- 保護者に対する就労の支援・・・就労支援の強化 等
- 経済的支援・・・交通費の補助 等

子供のいる世帯の生活状況等に関する調査 「主な調査結果」

- ①子供の学習に関すること
- ②子供の居場所に関すること
- ③保護者の周囲との関わり
- ④教育費に関すること
- ⑤ニーズ

※この資料は、精査前の暫定値を使用しています。
(調査結果中に示す(n=〇〇)の「n」は、標本数です。)

①子供の学習に関すること

学校外の勉強時間

自宅での勉強時間に比べ、塾など自宅以外での勉強時間は経済的状況により差がみられる

- 自宅での勉強時間は、「全くしていない」割合が一般世帯に比べ、ひとり親世帯の非相対的貧困層、ひとり親世帯の相対的貧困層、生活保護受給世帯の順に多くなっていきます。
- 塾など自宅以外での勉強時間は、「全くしていない」割合が、一般世帯の非相対的貧困層、一般世帯の相対的貧困層、ひとり親世帯の非相対的貧困層、ひとり親世帯の相対的貧困層、生活保護受給世帯の順に多くなっています。

<子供回答 自宅での勉強時間>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
全くしていない	39.3	28.6	22.5	10.5	10.6
30分未満	35.7	17.7	24.9	21.1	22.1
30分～1時間未満	10.7	23.5	20.8	15.8	27.9
1時間～2時間未満	10.7	15.3	17.4	31.6	22.7
2時間～3時間未満	3.6	4.8	8.2	10.5	8.1
3時間以上	-	6.5	4.8	5.3	6.7
不明・無回答	-	3.7	1.4	5.3	1.9

<子供回答 塾など自宅以外での勉強時間>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
全くしていない	64.3	58.5	50.2	47.4	39.7
30分未満	3.6	2.7	3.9	5.3	2.5
30分～1時間未満	-	3.7	6.0	5.3	6.0
1時間～2時間未満	17.9	16.0	18.8	10.5	20.3
2時間～3時間未満	-	9.2	7.7	10.5	12.2
3時間以上	-	4.8	9.9	15.8	14.8
不明・無回答	14.3	5.1	3.4	5.3	4.4

学校の成績

学校の成績は経済的状況により差がみられる

●学校の成績が「(やや)下のほう」「(あまり)よくない」割合は、子供票・保護者票ともに、一般世帯の非相対的貧困層、一般世帯の相対的貧困層、ひとり親世帯の非相対的貧困層、ひとり親世帯の相対的貧困層、生活保護受給世帯の順に多くなっています。

<子供回答 学校の成績>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
上のほう	14.3	7.5	12.1	5.3	16.3
やや上のほう	10.7	20.1	18.1	21.1	23.5
真ん中あたり	17.9	22.4	31.9	31.6	32.2
やや下のほう	42.9	36.4	28.5	26.3	20.5
下のほう	17.9	21.1	15.7	10.5	9.4
わからない	14.3	9.5	7.5	15.8	5.6
不明・無回答	-	4.1	1.9	-	1.9

<保護者回答 お子さんの学校の成績>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=40)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=489)	非相対的貧困層(n=621)	相対的貧困層(n=40)	非相対的貧困層(n=1150)
良好	7.5	10.8	11.9	10.0	16.3
まあまあ良好	10.0	23.5	19.5	37.5	29.7
ふつう	20.0	27.0	30.9	25.0	34.5
あまりよくない	42.5	25.8	25.6	22.5	13.6
よくない	12.5	11.7	9.2	2.5	4.3
不明・無回答	20.0	12.9	12.1	5.0	5.8

授業の理解度

授業の理解度は世帯状況により差がみられる

●授業がわからないことが「よくある」割合は一般世帯に比べ、ひとり親世帯・生活保護受給世帯において多くなっています。

<子供回答 授業がわからないこと>

(単位:%)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
よくある	35.7	22.1	17.6	5.3	9.2
ときどきある	28.6	32.3	33.3	42.1	32.1
たまにある	25.0	23.5	24.9	26.3	23.0
あまりない	10.7	10.9	13.5	10.5	13.5
ほとんどない	-	7.8	8.7	10.5	21.3
不明・無回答	-	3.4	1.9	5.3	1.0

授業がわからなくなった時期

授業がわからなくなった時期は経済的状況により早期化している傾向がみられる

●授業がわからなくなった時期は、すべての世帯で「小学5・6年生のころ」の割合が多くなっています。

●一般世帯の相対的貧困層とひとり親世帯の相対的貧困層、生活保護受給世帯においては、「小学校3・4年生のころ」の割合も多くなっています。更に、生活保護受給世帯においては、「わからない」も多くなっています。

<子供回答 授業がわからなくなった時期>

(単位:%)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=25)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=229)	非相対的貧困層(n=314)	相対的貧困層(n=14)	非相対的貧困層(n=405)
小学1・2年生のころ	12.0	5.2	4.5	7.1	4.7
小学3・4年生のころ	16.0	17.9	10.5	14.3	10.1
小学5・6年生のころ	24.0	18.8	15.0	42.9	20.5
中学1年生のころ	8.0	18.3	22.9	7.1	21.0
中学2年生のころ	16.0	11.4	12.1	-	13.6
中学3年生のころ	-	4.8	5.1	-	3.7
高校1年生のころ	-	8.3	10.2	7.1	11.9
高校2年生のころ	-	5.7	8.9	7.1	3.7
わからない	20.0	8.7	9.2	7.1	9.1
不明・無回答	4.0	0.9	1.6	7.1	1.7

進学希望

進学希望は経済的状況により差がみられる

- 子供票では、「高校まで」の割合が一般世帯の相対的貧困層とひとり親世帯の相対的貧困層で2割前後と多くなっています。また、ひとり親世帯の相対的貧困層と生活保護受給世帯では「大学またはそれ以上」が一般世帯の非相対的貧困層・一般世帯の相対的貧困層・ひとり親世帯の非相対的貧困層に比べ少なくなっています。
- 保護者票では、一般世帯の非相対的貧困層に比べて、一般世帯の相対的貧困層・ひとり親世帯・生活保護受給世帯においては「高校まで」の割合がやや多く、一方で、「大学またはそれ以上」は少なくなっています。

<子供回答 進学希望>

(単位:%)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
中学まで	-	0.7	0.7	-	0.6
高校まで	14.3	18.4	9.7	21.1	7.8
短大・高専・専門学校まで	25.0	21.4	18.8	10.5	9.5
大学またはそれ以上	28.6	31.3	49.0	42.1	64.0
まだわからない	32.1	23.1	19.6	26.3	16.7
不明・無回答	-	5.1	2.2	-	1.4

<保護者回答 受けさせたい教育段階>

(単位:%)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層(n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層(n=1877)
中学まで	-	0.3	0.1	-	0.2
高校まで	21.8	14.4	10.0	10.4	3.6
短大・高専・専門学校まで	20.0	23.3	20.2	11.9	8.7
大学またはそれ以上	25.5	40.6	54.0	58.2	70.5
まだわからない	23.6	18.8	12.1	17.9	13.9
不明・無回答	9.1	2.6	3.5	1.5	3.1

学習の手助け

無料の学習指導の利用意向は保護者票ではすべての世帯において高い傾向

●無料の学習指導の利用意向は、保護者票では一般世帯の相対的貧困層において8割が「利用したいと思う」と多く、他の世帯でも6割前後となっています。子供票では、「使ってみたい」の割合に大きな差は出ていません。

<子供回答 ボランティア等による、無料の学習指導(学習の手助けなど)を受けられる場所>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	39.3	41.5	36.2	36.8	41.6
使いたくない	7.1	12.9	14.5	10.5	11.9
使う必要はない	46.4	43.5	45.2	47.4	44.8
不明・無回答	7.1	2.0	4.1	5.3	1.7

<保護者回答 無料の学習指導の利用意向>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=40)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=489)	非相対的貧困層(n=621)	相対的貧困層(n=40)	非相対的貧困層(n=1150)
すでに利用している	7.5	2.5	2.9	2.5	0.9
利用したいと思う	62.5	62.0	58.8	80.0	69.2
利用するつもりはない	12.5	26.0	28.5	12.5	24.4
不明・無回答	17.5	9.6	9.8	5.0	5.5

②子供の居場所に関すること

放課後の過ごし方

放課後、塾や習い事に行く割合は経済的状況により差がみられる

- 放課後「塾や習い事に行く」割合は、一般世帯の非相対的貧困層に比べ、一般世帯の相対的貧困層、ひとり親世帯の非相対的貧困層、ひとり親世帯の相対的貧困層、生活保護受給世帯の順に少なくなっています。
- 放課後「学校の部活動に参加する」割合は、一般世帯の非相対的貧困層に比べ、一般世帯の相対的貧困層・ひとり親世帯・生活保護受給世帯では少なくなっています。
- 放課後「自分の家で、一人で過ごす」割合は、すべての世帯において3割以上となっており、経済的状況による大きな差はありません。

<子供回答 放課後の過ごし方>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
自分の家で、一人で過ごす	35.7	37.8	45.4	31.6	34.8
自分の家で、家族と過ごす	42.9	48.0	36.7	63.2	51.4
祖父母や親戚の家に行く	-	4.1	4.8	-	3.0
放課後ルームに行く	-	2.0	1.2	-	0.5
船っ子教室(放課後子供教室)に行く	3.6	-	0.5	10.5	1.4
児童ホームに行く	3.6	2.0	1.0	5.3	3.0
友だちと遊ぶ	35.7	35.7	36.7	42.1	38.4
塾や習い事に行く	3.6	25.5	34.1	42.1	52.9
学校の部活動に参加する	32.1	40.1	43.0	15.8	49.2
地域のクラブ活動に参加する	3.6	1.0	1.4	10.5	3.0
ゲームセンターや繁華街へ遊びに行く	7.1	3.7	4.8	-	2.1
アルバイトに行く	14.3	11.9	11.1	-	2.9
家のお手伝いをする(家族のお世話や家事など)	7.1	11.2	11.6	15.8	11.9
その他	-	1.4	2.7	5.3	2.2
わからない	-	0.3	1.0	-	0.3
不明・無回答	7.1	5.1	3.9	5.3	1.0

居場所の利用希望

休日や夏休み中の居場所の利用希望はすべての世帯において多い

- 休日や夏休み中に遊びや勉強など、友だちと自由に過ごせる場所や施設を「使ってみたい」割合は、すべての世帯において多くなっています。
- 家族がいない時、夕ごはんを食べられる場所は、生活保護受給世帯において「使ってみたい」割合が多くなっています。

<子供回答 居場所の利用希望>

(単位: %)

A 放課後や休日に一人で静かに勉強できる場所

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	32.1	49.7	45.7	57.9	55.6
使いたくない	21.4	12.6	9.9	10.5	11.7
使う必要はない	35.7	35.4	40.8	31.6	31.0
不明・無回答	10.7	2.4	3.6	-	1.7

B 家族がいない時、夕ごはんを食べられる場所

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	42.9	27.2	29.7	31.6	29.8
使いたくない	3.6	8.8	9.7	-	12.2
使う必要はない	46.4	60.2	56.3	68.4	55.9
不明・無回答	7.1	3.7	4.3	-	2.1

C 休日や夏休み中に遊びや勉強など、友だちと自由に過ごせる場所や施設

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	57.1	60.9	60.1	63.2	71.9
使いたくない	-	6.5	4.1	5.3	4.0
使う必要はない	35.7	29.9	31.6	31.6	22.1
不明・無回答	7.1	2.7	4.1	-	2.1

D 勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	35.7	34.7	33.6	36.8	41.0
使いたくない	14.3	9.9	12.8	10.5	9.8
使う必要はない	42.9	53.1	49.5	47.4	46.8
不明・無回答	7.1	2.4	4.1	5.3	2.4

E ボランティア等による、無料の学習指導(学習の手助けなど)を受けられる場所

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=28)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=294)	非相対的貧困層(n=414)	相対的貧困層(n=19)	非相対的貧困層(n=630)
使ってみたい	39.3	41.5	36.2	36.8	41.6
使いたくない	7.1	12.9	14.5	10.5	11.9
使う必要はない	46.4	43.5	45.2	47.4	44.8
不明・無回答	7.1	2.0	4.1	5.3	1.7

③保護者の周囲との関わり

悩みや相談相手

一般世帯の非相対的貧困層以外の世帯では相談相手がほしい割合がやや多い傾向

●相談相手が「いないが、ほしい」割合は、一般世帯の非相対的貧困層以外の世帯で2割程度となっています。

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層(n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層(n=1877)
いる	65.5	70.3	70.7	76.1	84.0
いないが、ほしい	21.8	17.8	16.3	17.9	8.9
いないが、必要ない	9.1	9.1	8.8	4.5	5.0
不明・無回答	3.6	2.7	4.2	1.5	2.1

情報源

学校からのお便りが重要な情報源

●「学校からのお便り」は、すべての世帯で5割を超えています。

●ひとり親世帯・生活保護受給世帯では、一般世帯に比べ「広報ふなばし」「船橋市のホームページ」の割合が少ないのに対し、「市役所からの通知」は多くなっています。

●「家族や友人からの情報」の割合は一般世帯の非相対的貧困層に比べ、それ以外の世帯ではやや少なくなっています。

●「情報の入手手段がわからない」割合はすべての世帯において一定数いることがわかります。

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層(n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層(n=1877)
広報ふなばし	27.3	33.2	35.0	44.8	45.9
船橋市のホームページ	10.9	18.0	20.8	28.4	24.9
ふなっこアプリ	3.6	3.5	1.8	3.0	5.3
市役所からの通知	29.1	29.2	32.7	22.4	18.2
市役所の窓口等にあるパンフレットやちらし	7.3	7.5	5.3	10.4	7.7
SNS(LINE、ツイッターなど)	9.1	5.6	5.3	3.0	6.6
学校からのお便り(紙のもの)	60.0	53.9	55.5	56.7	60.2
学校からのメール	20.0	19.7	16.8	14.9	19.0
家族や友人からの情報	23.6	27.0	23.3	34.3	45.9
その他	-	2.2	2.4	-	2.1
情報の入手手段がわからない	7.3	8.8	7.6	7.5	3.7
不明・無回答	1.8	2.4	4.2	1.5	1.2

④教育費に関すること

教育費に関すること

進学にかかる教育費の準備は経済的状況により差がみられる

- 進学のための積立・学資保険は「していない」の割合が、一般世帯の非相対的貧困層以外の世帯において多くなっています。
- 子供の義務教育期間にかかる経費で、最も負担に感じるものは、「塾関係」「習い事」「制服・靴・鞆」「部活」が多くなっています。その他、学校関係の費用として、「学費・その他学校関係」「学用品・教材費」「給食費・昼食代」が多くなっています。

<保護者回答 進学のための積立・学資保険の加入状況>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層(n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層(n=1877)
現在している	5.5	38.5	55.5	41.8	76.0
過去にしていた(進学のために使用した)	5.5	3.5	5.7	6.0	1.9
過去にしていた(進学以外に使用した)	1.8	6.9	5.4	6.0	1.5
していない	81.8	49.3	30.7	46.3	19.4
不明・無回答	5.5	1.8	2.7	-	1.2

<保護者回答 子供の義務教育期間にかかる経費で、最も負担に感じる(感じた)もの【自由記載】>

(単位:件)

カテゴリ	合計	生活保護受給世帯	ひとり親世帯	一般世帯
塾関係	476	2	171	303
習い事	311	1	65	245
制服・靴・鞆	288	5	168	115
部活	235	3	162	70
保育・幼稚園代	197	0	27	170
学費・その他学校関係	193	2	79	112
学用品・教材費	171	7	93	71
給食費・昼食代	152	3	59	90
進学費用(受験代など)	141	4	76	61
食費・衣類費全般	129	5	73	51
家賃・生活費	87	1	30	56
修学旅行	83	4	58	21
教育費全般	63	1	25	37
医療費・介護費	36	0	12	24
交通費	35	0	22	13
放課後学童・ルーム代	28	0	20	8
校外学習	19	3	11	5
子供の交際費・娯楽費	16	2	12	2
PTA会費	15	2	9	4
その他	81	1	21	59
特になし	50	0	30	20

※自由記述の内容を該当する項目に割り振ったもの(複数回答扱い)

※対象として、現在未就学の子供を持つ保護者も含まれている

就学援助受給状況

就学援助制度を利用できていない世帯の存在が考えられる

- 就学援助を利用していない理由は、「利用の仕方がわからなかった」「制度等について知らなかった」がすべての世帯において一定数いることがわかります。また、一般世帯とひとり親世帯においては、「手続きがむずかしくて利用を諦めた」についても一定数いることがわかります。

<保護者回答 就学援助受給状況>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層(n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層(n=1877)
利用している	45.5	55.1	40.4	11.9	1.4
利用していない(自分の世帯は対象外)	10.9	23.8	39.3	56.7	87.5
利用していない(利用したが、条件を満たしていなかった)	-	1.3	5.0	3.0	1.1
利用していない(手続きがむずかしくて利用を諦めた)	-	0.5	0.4	3.0	0.1
利用していない(利用の仕方がわからなかった)	1.8	1.6	1.4	4.5	0.7
利用していない(制度等について知らなかった)	3.6	4.5	2.3	1.5	1.9
不明・無回答	38.2	13.3	11.1	19.4	7.2

⑤ ニーズ

子供にあるとよい支援

一般世帯の非相対的貧困層以外の世帯では経済的支援への要望が多い

- 一般世帯の非相対的貧困層以外の世帯では「生活のための経済的支援」「就学のための経済的支援」の経済的支援への要望が多くなっています。
- 一般世帯では、「地域における子供の居場所の提供」「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」等の割合が多く、ひとり親世帯の相対的貧困層では「子供の就労に関する支援」、生活保護世帯では「子供本人がなんでも相談できる場所」が多くなっています。

<保護者回答 子供にあるとよい支援>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層 (n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層 (n=1877)
地域における子供の居場所の提供	34.5	27.4	21.4	40.3	41.2
自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	21.8	27.9	22.1	49.3	46.3
会社などでの職場体験等の機会の提供	12.7	22.8	24.2	26.9	33.7
子供食堂など、子供が一人でも時間を過ごせて無料もしくは安価で食事ができる場所の提供	21.8	25.8	23.5	25.4	16.9
保護者の不在時に子供を預かる場や在宅サービスの提供	29.1	30.3	24.4	37.3	38.1
読み書き計算などの基礎的な学習への支援	32.7	27.8	20.6	29.9	22.4
子供本人がなんでも相談できる場所(進路や生活など)	45.5	35.2	33.2	37.3	37.1
生活のための経済的支援	50.9	51.7	39.1	47.8	17.2
就学のための経済的支援	63.6	62.9	59.0	50.7	33.2
子供の就労に関する支援	21.8	31.9	24.0	22.4	12.5
その他	9.1	3.4	3.4	1.5	3.8
特になし	3.6	4.3	5.7	1.5	5.8
不明・無回答	5.5	2.6	3.3	1.5	1.2

保護者にあるとよい支援

特に就学費用の軽減への要望が多い

- 「子供の就学にかかる費用の軽減」の割合は、すべての世帯で特に多くなっています。
- 「様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所で行えること」の割合は、すべての世帯において3割程度いることがわかります。
- 生活保護受給世帯では「子供や生活などの悩みごとの相談」「病気や障害のことなどについての専門的な相談」「子供の教育・進学に関する相談」の割合が多くなっています。
- 「一時的に必要な資金の貸付」の割合は、一般世帯の相対的貧困層・生活保護受給世帯においてやや多くなっています。

<保護者回答 保護者にあるとよい支援>

(単位: %)

カテゴリ	生活保護受給世帯 (n=55)	ひとり親世帯		一般世帯	
		相対的貧困層(n=623)	非相対的貧困層 (n=737)	相対的貧困層(n=67)	非相対的貧困層 (n=1877)
様々な行政サービスの申請や相談が一つの場所で行えること	32.7	29.7	33.0	35.8	35.5
子供や生活などの悩みごとの相談	30.9	18.0	13.7	20.9	14.4
同じような悩みを持った人同士が知り合えること	18.2	17.5	14.1	14.9	14.9
民生委員・児童委員など地域の人からの支援	7.3	3.2	2.2	1.5	2.3
離婚や養育費についての専門的な相談	20.0	10.9	11.0	14.9	2.9
病気や障害のことなどについての専門的な相談	27.3	12.4	9.0	9.0	10.1
必要とする住宅を探すための支援	18.2	21.5	13.6	13.4	3.2
病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子供を預けられること	25.5	20.9	18.2	28.4	27.6
自宅での家事や育児をヘルパー等が一時的に援助する支援	14.5	9.8	7.2	14.9	12.4
一時的に必要な資金の貸付	30.9	21.5	17.2	26.9	8.6
子供の教育・進学に関する相談	29.1	23.4	24.3	23.9	17.2
子供の就学にかかる費用の軽減	54.5	58.9	58.3	55.2	44.1
自身の就職・転職のための支援	18.2	18.1	14.0	19.4	11.7
自身の就職活動のときに一時的に子供を預けられること	12.7	9.8	5.0	10.4	11.1
その他	5.5	3.2	5.0	-	2.8
特になし	9.1	7.9	8.7	13.4	14.7
不明・無回答	1.8	4.2	4.2	3.0	1.4

速報値から推察される課題や考えられる取組について

推察される課題

考えられる取組

①子供の学習に関すること

経済的状況により、学習環境や将来の進学にも影響が及ぶと考えられる。

- 学びの支援の対象年齢の拡充
- 学習の機会の場の創設

②子供の居場所に関すること

安心安全に過ごせる、放課後や夏休みの居場所づくりが必要だと考えられる。

- 放課後等の居場所の充実

③保護者の周囲との関わり

支援に結びつけるための相談体制等の充実が必要だと考えられる。

- 相談窓口等の充実
- 支援につなげるための情報提供
- 訪問支援体制の整備

④教育費に関すること

子供の義務教育期間にかかる経費で負担を感じる(感じた)ものへの支援等が必要だと考えられる。
就学援助制度が必要な世帯に支給されていないことも考えられる。

- 保護者の負担軽減制度の充実
- 効果的な事業周知

⑤ニーズ

就学・就労のための支援や様々な行政サービス等が効果的に相談できる場所が必要だと考えられる。

- 就学・就労に関する支援の充実
- 相談体制の強化
- 関係機関の連携